

# 続かなかつた ス。ペインの栄華



16世紀  
18世紀

植民地帝国を築き上げたスペインの繁栄は、相次ぐ戦争や宮廷の贅沢による浪費、対抗宗教改革による迫害などが重なり、長くは続かなかつた。

## 「太陽の沈まぬ国」 スペインの没落

1479年、カステイリヤ女王とアラゴン王の結婚により誕生したスペイン王国では、両王の間に生まれた娘とオーストリアのハプスブルク家フィリップが結婚、その子カルロス1世が王となり、カール5世として神聖ローマ皇帝を兼ねた。その後、ハプスブルク家はスペインとオーストリアに分かれるが、スペイン王を継いだフェリペ2世はアメリカ大陸やネーデルラントなどを領有。1571年にオスマン帝国をレパントの海戦で破り、地中海の制海権を握ると、80年には母方の血筋であったポルトガル王位を継いで、アジア貿易も支配下におさめた。これにより全世界に拠点を獲得したスペインは、「太陽の沈まぬ国」とまでよばれた。

一方、フェリペ2世はカトリックの擁護者を自任し、対抗宗教改革（P.91参照）を推進して他国内政に干渉したほか、国内のユダヤ人やイスラーム教徒を迫害した。そのため、国内経済で中心的な役割を果たしていたユダヤ人やイスラーム教徒が国外に流出した。また、属領のネーデルラントでは、新教徒カルヴァン派の反乱（オランダ独立戦争）をまねいた。こうした新教徒との争いやイスラーム諸国との戦争さらには宮廷での浪費によって、中南米などからもたらされた富は消え、国内産業は育たなかった。そして、88年には無敵艦隊（アルマダ）がイギリスに敗れ、大西洋の制海権も失った。その後のスペインは、三十年戦争（1618〜48年）やスペイン継承戦争（1701〜13年）などにより、次々と支配地域を縮小し、勢力を衰退させてゆくことになる。

## スペインの没落

### スペイン無敵艦隊の敗北（1588年）

イギリス船による海賊行為に業を煮やしたスペイン王フェリペ2世は、無敵艦隊によるイギリス征討を行うが、失敗に終わった。



Key Word **ハプスブルク家**

ヨーロッパの代表的な王家。もとはスイス北部の貴族の家系。1273年ルドルフ1世が神聖ローマ皇帝に選ばれて以来勢力を拡大し、15世紀からは神聖ローマ皇帝位を事実上独占。政略結婚によってスペインも勢力下におさめた。第一次世界大戦後、オーストリア皇帝カール1世がスイスに亡命し、ハプスブルク帝国の歴史は幕を閉じた。